

# 施工方法と注意事項（ペコビーム）

## 施工方法

### ●ペコビームの架設ピッチの割り出し

ペコビームの許容曲げモーメントが $1.4t \cdot m$ であるから、構造物のペコビームにかかるスパンによる曲げモーメントを求め、ペコビームの許容曲げモーメントで割りますと、ペコビームの本数が得られます。

### ●ペコビームのスパン調節とパネル受け根太の配列

#### ●パネル受け根太の配列

(イ) ペコビームのスパンの長さは通常、受桁内側距離で表現しますが、実際使用する際は、そのスパン寸度から約10mm 差引いた長さに調整してウェッジロックで締めつけます。これは、ペコビームの両端の爪金具側面と受桁内側との間に、各5mm 程度のクリアランスを与えてムクリ戻りの伸びに備えるためであります。このように爪金具の背面と受桁間に5mm の遊隙を持たせて架設しますが、仮枠工事中はペコビームが荷重を受けていないため振動等により滑る恐れがありますので、釘で軽く仮止めを行うことが安全であります。

(ロ) 通常のコンクリート打ちの場合、コンクリートパネルを使用しますが、スラブ厚とスパン長によって架設ピッチが変化しますから、ペコビーム上に直接パネルを載せると継目が宙に浮くので、根太（パネル受バタ角）を介してパネルを載せ、パネルの継目を受止めるように根太を配列（通常 600～900mm 間隔）します。

### ●固有ムクリの戻り割り出し

ペコビームには固有のムクリがつけてありますから、これを組み立てますとスパンに応じた所要のムクリができるようになっていきます。このペコビームは、コンクリート荷重が加わりますと、ムクリは戻り、ほぼ水平になります。↓動荷重（ $150\text{kg}/\text{m}^2$ ）撤去後のコンクリートスラブの静荷重と型枠、根太の荷重（ $20\text{kg}/\text{m}^2$ ）を加算した荷重に対する残存ムクリを算出するムクリ線図であります。残存ムクリはスパンの長さでコンクリート荷重によって多少異なりますが、ほぼスパンの $1/400 \sim 1/800$ 程度であります。

### ●ウェッジロック（クサビ）

中型ハンマーでクサビを打ち込むだけで、内ビーム外ビームの締めつけが十分与えられますので、無駄な締めすぎをしないで下さい。

ペコビームのムクリはできるだけ均一になるようにして下さい。（ムクリ量はムクリ表参照）

### ●爪部

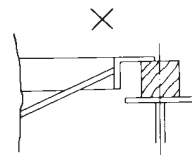
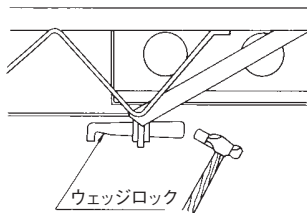
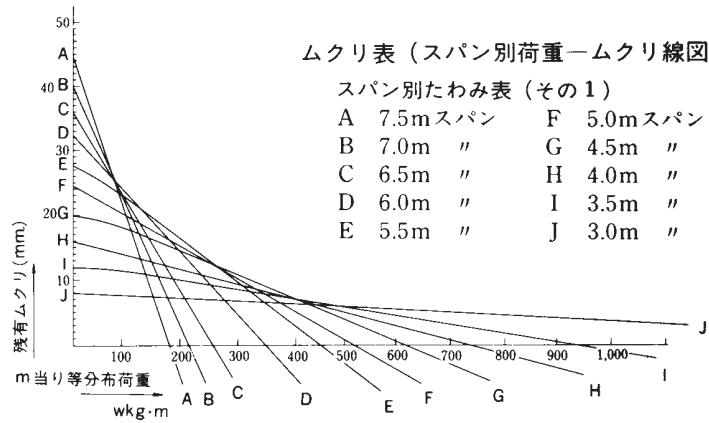
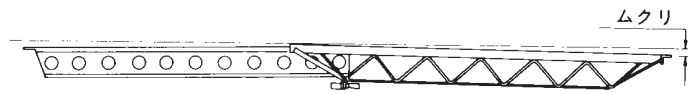
材の大引きを用いる場合は、右図に示すように爪金具の大引き上の圧着面積を大きくするようにして下さい。又、大引きの中心とサポート管の中心をできるだけ合心させることが望ましいです。鋼製大引きを使用する場合は、摩擦が少なく架設中、滑り移動を起こすことがあるのでボルトなどで固定すべきです。なお、ペコビームの中間の位置で、大引きに架設してはいけません。

### ●根太

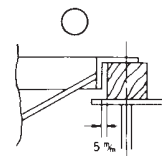
はりの上に設置される根太が、コンクリート荷重による摩擦力によって、ペコビームの水平材として働くので水平材の必要がありません。この場合、根太は通常パネルの中に従って設置されるものですので、その間隔は60cm 程度であります。ペコビームの本数算出の場合かならず許容曲げモーメント以内で使用して下さい。荷重オーバーしている場合ペコビームの中間にサポートしてもペコビーム自体が局部座屈するか、横座屈するため、絶対に中間でサポートしないで下さい。



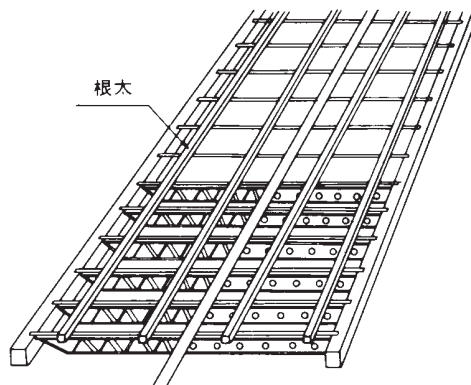
# 施工方法と注意事項 (ペコビーム)



悪い例



良い例



施工方法と注意事項 (ペコビーム)